

足元固めて、新しい展開を



一般社団法人日本ホテル・レストランサービス技能協会 会長 森本 昌憲（もりもと まさのり）

会員の皆様、あけましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大に終始、夏には緊急事態宣言下での東京2020オリンピック・パラリンピックが無観客で開催され、日本選手の大活躍に沸いたのも記憶に新しく、秋の自民党総裁選、衆議院解散総選挙は共に大方のメディアの予想と異なる結果になり、徐々に原油価格が高騰して社会・生活の各分野で大きな影響が出るなど一年を通じて混迷の連続でした。まさにVUCAの時代（先行きが不透明で将来の予測が困難な状態）そのものでした。昨年秋から日本では新型コロナウイルス感染者の減少が続いており、本年は少しずつながらもなんとか収束に向かっていくことを願うばかりです。

2年に亘る厳しいコロナ禍を経る中、各分野での研究開発、創意工夫やICTなどを駆使して新しい生活様式に適合した技術、商品やサービスが生み出され、ホスピタリティ産業の分野でもいろいろな場面で導入され、新しい事業や商品、サービスの在り方などが提案されるようになってきました。

新型コロナウイルス感染の落ち着きと共に、経済活動も活発化するに伴いホテル・飲食業界も賑わいを取り戻しつつあり、従事する人たちの表情も明るく元気よくなってきています。改めてあらゆる場面で人々が楽しく交流することの素晴らしさ、その「場」を提供している私たち及び業界が活気に溢れていることがいかに大切であるかを感じています。経済活動の影響を受けやすい業界ですが、そこに漂い留まることなく常に新しい工夫、研究を重ねて今迄の延長線上に無いものを加え、アフターコロナの新しい時代を見据えて改革していくことがより強く求められるようになってきました。

大きく変化しようとする今のような時代にこそ、事業を支える基本、基盤(企業でいえば創業の理念、基本となる技術など)をしっかりと押さえておくことが新たなチャレンジを強く広げる原動力として大切なことと思います。HRSとしても、事業の柱のひとつ、国家検定の「技能検定事業」を更に拡充すると共に、年々増えている外国人留学生の受検者や、海外でチャレンジしようとする人たちが「国家資格取得の証」として活用できる様に国際的な対応をしていくこと、二つ目の柱としての「HRSサービスコンクール」、「技能グランプリ」や新たに加わる「技能五輪」国際大会のサポートなどの「コンペティション事業」をさらに強化し社会での確固とした基盤をつくること、そして三つ目の柱、「テーブルマナー講師認定セミナー」「各種講習会」など「人材育成事業」を従来の枠を超えて発展させること、更に新たな事業として「和食サービス検定(仮称)」のスタートアップ他、外食産業に従事する人などを対象にして昨年からはじめた「HRS接客ベーシック検定」を広く普及することで、業界全体の技能向上に貢献することなどを進めていきます。そして会員の皆様がHRSのメンバーであることに自信と誇りを持っていただけるよう協会内の表彰制度も改訂し、社会評価につなぐこと、そしてHRSの事業・活動の内容などの情報をより積極的に関係業界、社会に発信し「コミュニケーション・PR活動」を充実することが重要と考え推進していきます。

本年もよろしくお祈りいたします。会員の皆様のますますのご活躍をお祈りいたします。

